

『纏向遺跡と山辺の道散策』のご報告

担当 6 班



1. 日 時：2017年10月27日(金) 2. 集合場所：近鉄電車 大阪線[桜井駅]北口
3. 集合時間：10:00 4. 参加者：67名 5. 天 候：晴れ
6. 行 程：近鉄桜井駅北口出発 10:05⇒初瀬川・仏教伝来の地 10:40 ⇒海石榴市跡 10:50⇒金屋の石仏 11:08⇒
崇神天皇磯城瑞垣宮跡 11:20 ⇒大神神社 11:30⇒狭井神社 11:40⇒展望台 11:50[昼食・班長会議]⇒
玄賓庵 13:00⇒檜原神社 13:35⇒井寺池⇒ホケノ山古墳 14:25⇒箸墓古墳 15:20⇒纏向石塚古墳⇒
勝山古墳⇒ 卑弥呼の神殿跡 15:30⇒JR 巻向駅 15:40

『仏教伝来の地』 欽明天皇の時代(528年、552年説あり)に、百済の聖明王の使節が訪れ、釈迦^{こんどう}金銅仏一躯と経論等を献上し、日本に仏教を最初に伝えたといわれている所である。また推古天皇の608年隋より小野妹子が伴ってきた大使裴世清^{はいせいせい}を飾り馬75頭でにぎにぎしく迎えたのもこの地である。

『大神神社』 三輪山西麓に鎮座。祭神は大物主神、大己貴神、少彦名神の神とするが記紀によれば、もとは大物主神一座であり、この大物主とは三輪山そのものである。従って、この神社は本殿を持たず、ご神体は三輪山そのものである。更に記紀によれば崇神天皇の時代、大物主神の祟りを鎮めるため祭祀を行ったのがはじまりである。

『箸墓古墳』 倭迹迹日百襲姫大市墓、通称箸墓。三輪山西麓にある古墳時代前期の最大級の前方後円墳。全長272m、周濠の一部が北側に池として残っている。倭迹迹日百襲姫は日本書紀によれば孝靈天皇の皇女(古事記では孝元天皇皇女)で三輪の大物主神との神婚説話を残すが、一方、『魏志倭人伝』にいう邪馬台国の卑弥呼をこの姫に比定する説があって、そこからこれを卑弥呼の墓とする見方もある。



仏教伝来の地



大神神社



三輪山と箸墓古墳

※今回の“テーマ”：『邪馬台国はどこか？』

『魏志倭人伝』の伝える卑弥呼がいた邪馬台国はどこか？ は江戸時代から200年以上もの論争はまだ決着がつかない。

明治時代になって東大教授の白鳥庫吉は九州説を唱え、京大教授の内藤湖南は畿内説を唱えた。昭和44年、九州島原出身の宮崎康平が盲目にもかかわらず妻の助けを受けて九州をくまなく調査して『まぼろしの邪馬台国』という著書を発表した。50万部以上の大ベストセラーとなった。彼は自分の故郷の島原が邪馬台国あるとした。

※今回の『植物観察』

センダングサ、セイバンモロコシ、イヌホズキ、ミゾソバ、セイトカアワダチソウ、チカラシバ、アキノタムラソウ、ヨメナ、チャノキ(花・実)、アキノノゲシ、イヌタデ、ヒレタゴボウなど

※所感

今回も、奈良の歴史の始まりになる「山の辺の道」周辺をゆっくりと廻る機会を戴き、仏教伝来の地や日本の誇りである大神神社など多くの有名な神社に参拝することができたことは非常に有意義な日になりました。また、三輪山の周りには色々な言伝えのある古墳群があり住んでいる大阪とは空気が違うような気になりました。過日に散策しました大和三山といい、次回に行く予定になっております圓照寺からの正暦寺への紅葉ハイキングも大阪にはないもので

とても楽しみにしております。今回も、我が班の[水本さま]の元気な説明と記憶力の素晴らしさに感服を致しました。